

アデンプラスWebカンファレンス

ご自宅や病院などから、インターネットを通じてライブに参加いただけるカンファレンスです。

PH治療におけるsGCの使い方 -臨床使用における疑問にアプローチ-



座長 坂尾 誠一郎 先生 千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学 准教授

講演1

PAHに対する多剤併用療法のReal World Data最新知見



演者 平出 貴裕 先生 慶應義塾大学医学部 循環器内科 特任助教

肺血管拡張薬はエンドセリン経路、一酸化窒素経路、プロスタサイクリン経路に作用する薬剤に大別され、複数の肺血管拡張薬を併用することで、肺動脈性肺高血圧症(PAH)患者のQOLや生命予後は大きく改善した。しかし臨床の現場では、肺血管拡張薬の投与によって頭痛や血圧低下などの副反応を認め、服薬指導や薬剤調整に苦渋する症例を経験する。患者服薬コンプライアンスを保つことは、PAH治療における大きな課題であり、実臨床データ(Real World Data)の蓄積が重要である。本講演では肺血管拡張薬3剤併用療法のデータと、服薬指導のポイントについて自験例をまじえて述べる。

講演2

運動負荷右心カテーテルで考えるBPA後の薬物療法



演者 青木 竜男 先生 国立循環器病研究センター
心臓血管内科部門 肺循環科

BPA(バルーン肺動脈形成術)は、非手術適応の慢性血栓性肺高血圧症患者の血行動態、運動耐容能、予後を改善する非常に有効性の高い治療である。しかし、BPAにより血行動態が改善した症例であっても、運動負荷右心カテーテルを施行すると肺血管床には依然として障害が残存する事を示唆する結果が示された。本講演ではこれらの結果をもとにBPA後の薬物療法の意義を検討する。

日時：2022年7月20日(水) 19:00-20:00

Q&Aについて

インターネットを通じて随時質問を受け付けます。お寄せいただいた質問は最後に平出 貴裕 先生、青木 竜男 先生より直接ご回答をいただく予定です。

● Webカンファレンスへの参加方法は裏面をご参照ください。